＝セッション冒頭挨拶の要旨＝
　①批判精神を重んじ、新規性を尊ぶ学会は、イノベーションのエンジンである（α）。
　　もし、「若手」ということばが「イノベーションの担い手」という意味ならば、「若手」こそ「学会の中核」である。

　②学会大会におけるテーマセッションは、イノベーション促進の仕組みである（β）。

　③複数学会連携（関東社会学会＋福祉社会学会）も、学会の非成文的文化を相対化する方法としては、イノベーション促進の仕組みであるといえる（γ）。

　④本日のセッションは、「α＋β＋γ」として存在している。
　　セッションの副題後半部分である「学会の自己認識」に繋がる議論にまで、発展させて行きたい。

　⑤具体的には、学会の質の変化（同業者ギルドから、サービス提供機関へ）や、　　知識人の社会的役割の変化（啓蒙の担い手から、専門職連携の当事者へ）と結び付いたものとして、
　　「若手支援」の問題を考えていきたい。
　　つまり、「学会の自己認識の一環としての若手支援セッション」、
　　「学界・学会文化を再吟味するきっかけとしての若手支援セッション」
　　「新しい知的共同を作り上げる作業の一環としての若手支援セッション」
　　としていきたい。